

1. 評価結果概要表

平成 20年 4月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	2072200435		
法人名	社会福祉法人 恵仁福祉協会		
事業所名	中原グループホーム		
所在地	長野県上田市真田町中原1805番地1 (電話) 0268(72)9022		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】(20年 3月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 3月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤2人	非常勤4人 常勤換算3.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,110 円	その他の経費(月額)	20,010 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 80 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要 (3月 10日 現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護1		要介護2	2名			
要介護3	4名		要介護4			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	85 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真田クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

真田町の中心部より南に位置した段丘地の中原地区に築50年程の民家を活用した、入居者同志の会話が朗らかに聞こえてくる家庭の暖かさを持ち、初めて訪れた者でも自然に溶け込んでしまうような雰囲気を持った味のあるグループホームです。家族のように、時には心配しい、時には支えあって和やかに暮らしています。得意な事、楽しめながら出来る事に着目し、自信を持って自分らしい暮らしが送れるよう職員は精一杯の支援を続けています。管理者は職員一人ひとりの力量を信じて、それぞれの役割を大切に、相談ごとにも応じ、支え、支えられる関係作りをしている。又グループホームネットワークを活用して、ひとりよがりになりがちな運営の軌道修正を行っている。訪問看護の活用、複数の医療機関との密な関係、終末期の対応も万全であり、「安心して、ここで暮らして良いんだ。」と思ってもらえる運営が出来上がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しについては3ヶ月に1度、定期的に行われている。栄養士の指導については早速実施することを伺った。周辺の協力体制については運営推進会議等を通じて十分な協力が出来上がっている。ホーム機能の還元(認知症に関する事)については自治会との協議は成立し、要請を待っている状態である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員共に前向きに取り組んでおり、自らの介護の質を見直す良い機会と捉えている。気付くこと、気付かされることをよい事として、評価を正面から受け止めようとしている。「良いことを聞きました。」という言葉に事業所の姿勢が感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地元住民の代表、行政も参加し、当会議の目的、事業所の現状などの説明をしてホームの理解を求めている。住民からも疑問、地域の様子、行事へのお誘い等活発な意見交換が行われている。特に災害時への対応については、地域の方々も憂慮しており、ホームの配置図を配布するなど、まずは事業所自体を認識してもらうことに努力した。地域の方が参加しての避難誘導訓練が、地域の理解を得て実現することを望みます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時等には何でも言っただけのような配慮がなされている。暮らしぶりや健康状態、金銭出納簿は定期的に報告し、ご家族の安心を得ている。ご家族との関係は良好であり、家族会も年3回行われ、施設だよりも年3回配布されている。意見、苦情等はないが、ご家族、訪問者等も入居者の豊かな生活を支える一員であることを理解していただき意見を気軽に言えるような、さらなる工夫を期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くにある本原小学校児童との親しみある交流が盛んであり、餅つき、おにぎり作り、運動会や音楽会への招待と子どもたちも近くにある祖父母の家という感じで接触をしている。入居者も孫との接触であり、家の前を通る子どもたちの話し声、笑い声が一日の楽しみである。卒業生に贈ったペーパーフラワーのチューリップは入居者の大きな思い出の一つである。近所から野菜や花のおすそ分けを頂き、お返しに土産を差し上げたりと当たり前近所づきあいをしています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人として、幸せに、安心して生きる日々を大切にす る」という運営方針を土台にして、「地域の一員とし て」を前面に出し、地域密着型の理念を作り、さりげ なく訪問者に見えるよう額に掲げてあった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務や申し送りの際に共有化を図り、いつで も思い出すよう居間の正面の額に掲げてあった。常 に職員全員で理念の実現に向けて取り組んでいる 様子が入居者への声掛けやお茶を飲みながらの会 話に感じられた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている	年4回のいきいきサロン、定例の区会、地区の防災 訓練への参加、道路を隔てた向かいにある小学校 児童との密な交流、近所の方の野菜等のおすそ分 けなど都市部ではなくなりつつある当たり前の地域 とのお付き合いをしている。年3回のグループホ ームだよりを全戸配布し、馴染みのホームになるよう 努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対しては、管理者、職員共に積極的に取り組 む姿勢があり、自ら気付いて介護の質を改善し、外 部から気付かせてもらい更なる日々の介護の理解 をし、働き甲斐につなげようとしている姿勢が伺え た。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に対する地域の理解が得られており、積極的な意見交換が行われている。事業所側も気付かされることが多く、説明も丁寧になされている。防災に関して心配りしたり、会議の参加地区の範囲の拡大を要望するなど地域の方の関心の大きさを感じた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政への働きかけはしているが、なかなか密なるつながりは実現できていない。町は保険者であり、福祉を推進する最前線の立場として重要な存在であるため、関係作りを積極的に行っていくことを望みます。	○	運営推進会議への出席はありますが、それ以外の接触がないので、相互の働きかけの努力を期待します。たとえば、地区での認知症の講演を、行政、事業所、自治会の三者で協力して計画し、それぞれの持ち味を出し合って運営するなど良い関係作りの一歩を踏み出すことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納簿のコピー、領収書の送付にあわせて、暮らしぶりの分かる家族だよりを年3回、定期的に行っている。健康状態に変化があった時には、速やかに連絡が来ているので、ご家族からの安心も得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の家族会、その企画のための役員会、面会の折等、ご家族からの意見、要望を聞く機会を多く持つように配慮されている。ただ、意見、要望等が出ないのが現状であることを伺った。	○	意見、要望等は全般的なことについて言うとなると、なかなかでないものであり、特別な状態が生じないと苦情にはならないものです。介護の質やプライバシーの保護に向けての改善のためには2～3ヶ月を周期としてテーマ(言葉遣い、清掃、身だしなみ等)を決めて気付いたことを言って頂くなどの意見を言いやすい工夫をされることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は、入居者と馴染みの関係を築くために1ヶ月間は正規の勤務割りから、はずす体制にしており、入居者、職員ともにゆっくりと馴染めるように配慮されている。基本的には職員は固定化されていることを伺った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議があり、必要に応じて研修報告会を行っている。さらに、法人主催の研修会(月1回)グループホーム勉強会(2ヶ月に1回)が開催され、介護に関する知識向上に努めている。外部研修への参加は代表者だけになりがちではあるが、上記の研修で、常勤、非常勤者共に十分に力はついていくものと感じた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	19年度に近隣とのグループホームネットワークができ、ホーム間の話し合い、現場での交流研修も行われ、孤立や、独りよがりになりがちなホームの経営からの脱却を図っている。気付くことの多い交流になっており、20年度に向けて更なる輪の拡大を目指していることを伺った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初はお茶を飲みながら、少し馴染んだところで、「泊まっていったら」と声掛けするなど、少しずつ気持ちが動くのを待っての入居としている。入院先からご家族の事情により、いきなり入居し、馴染めなくて、共に苦しんだ苦い経験があり、それが馴染みながらゆっくり入居する姿勢を支えていることを伺った。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者、職員、来客者にお茶の給仕をする調理好きな方が居て、その場に溶け込み、当たり前に対応し、役割を担っているというより、共に暮らす仲間だからという雰囲気が感じられた。農作業、手工芸等それぞれ得意分野があり、さらに年中行事など、職員は教わるが多いと聞いて職員と入居者が一緒になって作る一つの家庭の臭いが感じられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、寄り添いながら言葉や表情から汲み取るよう努めている。ご家族からの情報も得て、これまでの暮らしの延長として、どのように暮らすことが最良なのか、一人ひとりの思いを実現できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自の個別援助計画書で、入居者、ご家族の状況を充分調査し、その中から入居者、ご家族の思いや意見を取り入れて、全職員での話し合いを経て、支援のための課題を見つけ、介護計画を作成している。計画の出来上がる過程が専門家でなくても分かる形になっており、馴染みやすい介護計画書になっていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、定期的に介護計画書の見直しが実施されており、設定した介護の目標を毎月評価していて、きめ細かい努力の後が見受けられた。又、状況の変化があった場合にはご家族の参加のもと、全職員で計画書の見直しをしていることが確認できた。	○	急な状況変化があり、介護計画書自体の作成が後回しになり、即見直した介護の実施になったケースがあったので基本に立ち返ることを望みます。又ご家族等のサイン漏れのあるケースがあり、確実に承認をもらう工夫(郵送し確実に返信をもらうなど)をすることを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、入居者の負担となる受診や入院の回避、医療関係者との情報交換や意見交換を行い早期退院への支援、さらには重度化した場合にも対応できる仕組みもあり、入居者、ご家族の安心を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は入居者、ご家族の希望に応じた、かかりつけ医を利用し、通院等の介助は基本的には職員で対応しているが、不可能な場合は、ご家族の理解を得て協力を頂いている。協力医院から3週に1回往診に来てもらうケースもあり、医療機関との関係も密であり、医療面でも安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応指針を全職員が共有しており、ぎりぎりまでホームで対応し、最後はご家族等の希望により、入院させた終末期対応経験もあって、入居者、ご家族共にどんな状況になってもホームに居られる安心感を与えている。契約時にも終末への対応の同意を得ており、職員、ご家族が一体となって取り組む姿勢が伺えた。さらに変化するご家族の思いや気持ちを大切に寄り添った支援を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や日々のミーティングの折に職員の意識向上を図るよう心掛けている。認知症の高齢者介護にとって最も大切なことは「尊厳」であると言われているので、言葉掛けや介護の対応にはプライバシーを損ねない徹底した取り組みが必要であり、それらが日々の関わりの中から充分に感じられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思や希望を大切に、説得ではなく納得していただけるような関わりを大切にして一人ひとりのペースや体調、気分なども考慮して個別的な支援をしている。入居者と職員がおしゃべりしながらお茶を飲み、入居者のペースに添って、一緒に生活を送っている風景は傍から見ても和める雰囲気であった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の好きな方が居るので、職員は季節料理や味付けを教わりながら、入居者と一緒に食事を作っている。食材もできるだけストックを避け、その日に買い物をしている。片付けも入居者と一緒であるが、食事が終わると、入居者が自然と食器の片付けに向けての整理を始めるのが印象に残った。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日中、夕食前、夕食後、就寝前等入居者の希望に添って行っています。入浴を好まない方にはタイミングや誘いの工夫をし、入浴剤も好みに応じて使用しています。古い型の浴室で、若干の不便さは感じますが、懐かしさがあり入浴そのものは楽しめ、更に気付きの力を甦らせる働きにもなっていると感じた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、農作業、手工芸等が得意な方が居て、それぞれの場面で指導者となっていきいきと活動している。入居者と職員が一体となってペーパーフラワーでチューリップを作り小学校の卒業生に贈ったのは大きな思い出深い作業であったと懐かしそうに語るのを聞いた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	テレビを見て桜を見に行こうと決めたり、菅平高原、別所温泉に行ったりとできるだけ外に出る機会を作るようにしている。昔馴染みの友人の家にお茶を飲みに行ったり、近所へのゴミ捨て、家の周りのしいたけやぶどうの管理、庭いじりなども楽しみの一つになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないことが全職員の当たり前の共通認識になっており、自由な出入りが可能になっています。家の前が坂道であり、体力の衰えもあるので、安全面への配慮は常に行っており、地域との付き合いがしっかりしているので、近所の人の見守りも万が一の場合の助けになっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけの避難訓練はできており、夜一人になる職員も通報手順が電話機の前にあるので落ち着いて対応できると安心顔で語っていた。又、地域支えあいマップの対象か所になり、家の配置図等の状況は地域や消防団に知らせてあり、災害時の地域協力の基盤は出来上がっている。地域の方も大きな関心を持っている。	○	頭に描く災害と実際の場合とは相違が大きいので、地域の防災訓練の一環に組入れてもらうなどの工夫をして、地域住民の協力を得ての入居者避難救出訓練の現場経験を積まれることを期待します。更に訓練の反省会を実施し、問題点を見つけ、次回につなげて行くことを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確認が必要な方にはチェック表が作られており、献立は栄養のバランスが配慮されたものとなっています。水分量についてはお茶のお勧め上手な方が居て楽しみながら十分に摂取できています。今後、法人の栄養士の献立指導を受けることを伺った。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはカニサボテンの鉢があり、タオル地で作った犬の縫いぐるみが三匹出迎えてくれて気持ちが和みます。居間、食堂、台所とつながりになっていて、連続性のある生活空間となり、調理の音や臭いが感じられるようになっている。居間のコタツには脚を切って楽に座れるイスがあり暖かさも逃げないよう工夫されている。壁には吊り籠、ねずみの手芸品等が飾られ眺めて飽きない空間になっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンス、写真、位牌、時計等があり、居心地良く過ごしている居室になっていた。大切にしている帽子も壁にかけてあり、日々それらを見ては、ほっと一息入れている姿が目につきました。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。